

# THE HIKAWA TIMES

平成31年4月8日

第74号

発行：進路指導係

## 平成31年度入試 日川高校進路状況総括

### 国公立大学57名 私立大学237名

お茶の水女子大 ①

電気通信大 ①

東京農工大 ①

筑波大 ①

静岡大 ①

信州大 ②

山梨大医 ①

山梨大他 22

都留文科大 ④

山梨県立大 ⑦

合格校 (抜粋)

過年度生を含む

【国公立】

北見工大 2

岩手大 1

宮城大 1

秋田大 2

群馬大 1

新潟大 1

富山大 1

福井県立大 1

長野大 1

山口大 1

高知県立大 1

【私立】

慶應義塾大 1

明治大 2

青山学院大 1

立教大 2

中央大 3

法政大 1

成蹊大 1

東京女子大 1

日本女子大 2

日本大 2

東洋大 3

その他多数

### 難関突破！その秘訣

山梨大学 医学部 医学科

僕は現役時代バスケット部に所属しており、平日の勉強時間は朝二十分、夜一時間半の計一時間五十分程度でした。みなさんの中には平日家に帰ってから勉強なんてやる気にならないという人も多いと思います。僕もそうでした。そこで僕は自分が少しでもやる気になる科目(数学と英語)だけ勉強していました。まずなによりも重要なのは、机に向かう習慣を作ることです。放課後の練習でへとへとになりながらも机に向かうという日々を乗り越えてきた経験があったからこそ、僕は長い受験期の勉強も体力的には全く苦しくありませんでした。

新潟大学 人文学部 人文学科

引退してからは、主に二つのことを意識して受験に取り組んできました。一つ目は、「基礎」の徹底です。「基礎」という言葉は少し曖昧かもしれませんが、僕は「基礎」＝「教科書の内容」だと考え、教科書を何度も音読し、その内容をしつかりと自分の言葉で頭の中に落とし込むように意識しました。「基礎」をどれだけ徹底したかという点では、僕は誰にも負けない自信がありました。

二つ目は、自分の力を分ったうえで勉強の計画を立てるということです。受験は総合得点勝負なので、すべての科目を完璧にする必要はありません。例えば、僕は三年生の冬休み前の模試で古典や地理で六割程度しか取れていなかったため、冬休みに何とかしなくてはと考えていました。そうは言っても古典には苦手意識があったので、基本事項だけを抑えて失点を最小限にする勉強をしました。一方で地理は勉強することがそこまで苦ではなかったため、時間をかけて問題演習や復習を行うなど高得点を狙うための勉強をしました。

自分の得意不得意を知り、どの科目でどれくらい得点を取るかプランを立てて、それに応じた勉強をしてきたことが本番で大失敗しなかった要因だと思っています。

最後に僕が受験を乗り越えるうえで一番大切だと思うことは、「勉強を楽しむこと」です。勉強を重ねていくと今までは違った考え方ができるようなり、少し普段何気なく見ていたものが少し違つて見えてきます。受験勉強をただ辛いものと考えていては受験を乗り越えることはできないと思います。是非皆さんには、苦しい中にもその面白さを見つけてほしいです。

日川高校は部活動がとても盛んで「文武両道」を掲げています。厳しい練習を通じて精神力が鍛えられ、受験でもいい結果が出せると思ってくれる人も多いと思います。しかし、大学受験というのは部活動を頑張っていたからと言って無条件に結果が出るというものではありません。部活動では、やらなければならない、逃げられない環境が用意されていますが、勉強は自分の意志でやるものです。引退後は気が抜けてしまいがちで、なかなか切り替えができない人も多くいます。実際私も部活動を引退した六月ですが、本格的に受験勉強を始めたのは夏休みからでした。まだ時間があると油断することなく、みなさんにはすぐにでも勉強を始めてください。

苦手科目がある人は、夏休み中にしっかりと対策しておいてほしいです。

### 平成三十一年度入試を振り返って

平成三十一年三月卒業生(単位制十八期生二二〇名)と浪人生の進路状況のうち、四年制大学の合格状況を右にまとめました。国公立大学合格者は、57名(内現役生は51名)でした。お茶の水女子大、電気通信大、東京農工大、筑波大、等の難関大学をはじめ、地元山梨大学は、難関の医学部医学科に1名、工学部13名、教育学部7名、生命環境学部2名と多くの合格者を出しました。また、山梨県立大学は、国際政策学部3名、看護学部4名、都留文科大も4名の合格者を出しました。

私立大学は、延べ237名(内現役生は199名)が合格、短期大学は14名、専門学校等は延べ41名(内現役生は38名、就職は3名)でした。卒業生は、在学中「文武両道」に努め、各種大会においても大きな成果を残しました。また引退後も、それぞれの進路目標に向かい諦めない姿勢を貫き、3月の後期試験まで頑張った生徒も目立ちました。

少子化になったとはいえ、多くの高校生が目指す人気大学は、相変わらずの高倍率です。加えて「私立大学の定員厳格化」もあり、今後厳しい入試状況が続くことが予想されます。さあ、新年度がスタートします。生徒の皆さんは「明確な進路目標」と「学力向上のための努力」を惜しまず前進して下さい。

(進路指導主事 藤原千鶴)